

第6期西蒲区自治協議会を振り返って



第6期会長
長井 正雄

平成二十九年四月からの二年間、第6期西蒲区自治協議会長をさせていただき、地域コミュニティ協議会や各種公共の団体、行政等とも連携を密にしなが、協働の要として、まちづくりに努めて参りました。

西蒲区においても著しい人口減少を解決へとつなげていくため、まちづくり提案書を作成し、区長に提言しました。解決には、雇用の場・定住の場・交流人口を創出する横断的かつ総合的な取り組みが必要で、

また、高齢化率が市内で最も高い当区においては、老朽

化が著しく、バリアフリーへの配慮が十分でない区役所庁舎が問題となっているため、市長あてに現在地での新庁舎の早期整備を要望しました。このように、区内の多様な意見の調整・取りまとめを行い、地域の声を行政に届けています。

六期十二年にわたり活動してきた当協議会ですが、第七期は新たな姿となります。「これまで以上に、組織のあり方を区の実情に合ったものとする」という方向性のもと、より多くの公共的団体や有識者に参画いただき、地域のご持てという住民自治の観点から議論を活性化していきます。

これからも、協働による自立したまちづくりに努めて参りますので、ご理解とご協力をお願いします。



西蒲区自治協議会通信

題字 小林 真由美

[第10号]

平成31年3月15日発行

発行 西蒲区自治協議会

編集 西蒲区自治協議会広報部

事務局 西蒲区役所地域総務課

〒953-8006 西蒲区巻甲2690番地1

TEL 0256-72-8143

FAX 0256-72-6022

E-mail chikisamsk@city.nagasaki.jp

中世のロマン「笈摺」を追って ～石瀬青龍寺(新潟市文化財指定)～



新潟市西蒲区石瀬にある青龍寺は、越後屈指の古寺名刹で知られ、寺には多宝山系の山岳仏教を証とする「笈摺」が保存されている。「笈」は山伏などが

修行する際、仏具を入れて担いだ箱型の道具で、正面には飛天、鳳凰、阿弥陀三尊、浄土界の蓮池など多用な文様が施されている。全体を覆う金銅鍍金装(ときんそう)の打出し文様は豪華で、その技法などから室町末期～桃山時代の制作と推測され、絢爛たる文化と山岳仏教の融合を物語っている。

〔高さ79cm 巾66cm 奥行30cm〕

この青龍寺は、天平八年(736)僧行基が石瀬の地を訪れ、弥彦、多宝山一帯を霊場と考え薬師堂を建立したと伝わる。背にそびえる多宝山は、神や仏の棲む山として崇められ、山岳仏教の遺構とともに中世に石瀬が霊場であったことを偲ばせている。

地域の魅力発信コーナー

あったでんがの 五之上の昔ばなし

五之上には昔から伝わる、キリシタ嬢の地蔵様がある。

その昔、味方から西へ約一里離れた高地にあった集落に、白髪頭に垢と汚れて変色した着物をまとった老婆が住みついた。その頃は、荒れ地を掘り起こして自分達の領土にする時代だったので、争いが絶えなかった。そのたび、老婆は先頭に立って侵入者を追い払ってこの地を守った。いつしか、この老婆は「護り神」だったということで、村の名前を「護の神(ゴノカミ)」と言ったのが、いつの間にか「五之上」になったということである。

この嬢の名前をキリシタウバと呼んで、お地蔵様をたて、祀っている。以前は七月に地蔵講が開かれていたが、今は世代も代わり、行っていない。ただ、この話を後世まで伝えるべく、このように、紙芝居やDVDになって残されている。



●ホットコーナー

ありがとう、父ちゃん!

◆シヨちゃん

新潟地域振興局農林振興部・巻農業振興部の主催で行われた「平成三十年度いがた」なりの匠(匠研修会)で、稲藁でリースを作ってきました。私が小さい頃は、米の出荷が終わる雪がちらつく頃になると、納屋で俄、さんばい、縄ないが父親の仕事でした。寒い小屋で作業する父親の脇で稲藁を運んだり、埃捨てをしたり、懐かしい匂いなんとも言えませんでした。稲束を三つに分け、縄をない、丸くしてリースの土台作りをするのですが、まとめるのに皆苦労しました。その時、父親が縄をなっていた姿、手先の動かし方を思い出しました。一本一本丁寧に織り込んで絡げていくやり方、「よし、あれだ!」振りをしっかりと加えてまとめていくことができました。父ちゃんのようにきれいに仕上がりましたが、リースを作ることができました。ありがとう、父ちゃん!

募集します

◆「ホットコーナー」皆さまの声! ◆詩、川柳、お子さまやベットの写真など、自分が「ホット」するものを、タイトルや一言コメントを添えて投稿してください。また、地域に関する課題などを、区自治協議会が協議してもらいたいことがありましたらご意見をお寄せください。◆いずれも事務局(広報紙第一面に掲載。連絡先をお書き添えの上、郵送または電子メールにてお送りください。

編集後記

自治協だより第10号を発行することができました。誌面作成に当たり、「協力頂きました皆様」に感謝申し上げます。さて、いよいよ平成が幕を下ろし、感慨に浸る間もなく新しい時代の到来です。広報部会も気持ち新たに「魅力ある誌面づくり」を目指してまいります。皆様からの「意見」「感想」などお待ちしております。

地域の魅力や特徴は! 現状や課題は! そして解決のための手段・方法と進んでゆく、心を焼く大切な会議である。自分たちの役割は、そして出来ることは何か。「地域と行政の協働の要」大きな力を発揮できる歯車を回すことの大切さ、難しさを痛感しております。伝統や文化の再発見であったり、豊かな自然や環境に抱かれて、懐かしいものやおいしいものが沢山ありと探して、懐かしく出かけよう。



第6期副会長
永塚 均一郎

豊かな心を育む活動や、健康寿命延伸のための努力、そして交流人口の拡大による地域の活性化に取り組んでいきます。「笑顔で支え合う輪を広げていきたい」

地域と行政の協働の要として、区自治協議会第6期が一年四月にスタートしました。地域の諸団体の代表者が集い、月一回開催される全体会議では、区民の皆さんが心豊かに安心して暮らせる地域づくりを目指して、意見交換を行っています。中でも、区役所の「新庁舎整備に関する要望書」を市長に提出したことは、今後の西蒲区にとって節目の取り組みであったと思います。

一方で、地域が抱える諸問題について、掘り下げて議論できなかったことが課題として残っています。そのため、



第6期副会長
川島 ユリ

来期に向け、幅広い意見を集約する目的で委員の選出団体を広く求め、西蒲区自治協議会の活性化につなげていく調整を行いました。多分野・多世代からの参画を期待し、一層の議論が深められると思います。

2年間、こんな活動をしてきました!

保健福祉部会

保健福祉部会では、主に福祉分野における西蒲区の課題解決について取り組んできました。

平成29年度は、「人口減少対策」として、婚活イベントや人口減少の原因調査を行いました。また、30年度は「認知症対策」として、医学博士の加藤俊徳先生をお招きした認知症予防講演会を開催しました。(詳細は下記)これらの活動を通し、西蒲区の抱える福祉課題を改めて考えるとともに、特に認知症対策事業では、委員が「認知症サポーター養成講座」を受講するなど、新たな知識の習得にも努めております。

私たちの取り組みにより、西蒲区の抱える地域課題について認識し、解決に向け一歩踏み出している方が一人でも増えることを期待しております。

●9/30 認知症予防講演会

当日は、定員700名のところ800名の方が来場されました。講演会では、日々脳が若返る生き方の秘訣として、毎日7時間以上寝ることなど、事例を交えてわかりやすくお話がありました。また、すぐにでもできるレジ袋を使った脳トレを参加者と一緒にするなど、楽しく笑いの渦に包まれる有意義な講演会でした。

まちづくり・産業部会

西蒲区の交流人口増大を目的とし「四季彩国フオラリー」と題し、区内各地区の魅力を撮影して西蒲区ならではの商品

をゲットしようという企画で区内5地区の写真を専用台紙に張り付けて応募してもらった事業を平成29年度は行いました。

30年度は引き続き西蒲区の交流人口増大を目的に、「まち歩きガイド養成講座」を開いて、今現在まち歩きガイドが活動している巻・岩室地区以外の地区でも多くの方から訪ねてもらえるような基礎を作りました。

この事業は31年度も実施し、西蒲区の観光面が、区内全域に波及していくことを期待しています。

総務部会

～子どもたちの想いを形に～

未来を担う子どもたちに、西蒲区の豊かな自然や歴史・文化などに触れてもらい、自分たちの住む地域の魅力をどう活かしたら良いか、子どもたちの視点で考えてもらおうと「西蒲Theミッション」が、区の事業として実施されました。

区内の小学5・6年生が「西蒲区未来創造隊員」となって各地をまわり、地域の魅力を再発見し、その活かし方について発表がありました。

その中に、角田岬灯台から流しソーメンを行えば、角田浜の美しく豊かな自然を多くの人に知ってもらえるのではないかという提案がありました。このアイデアを自治協提案事業として、総務部会が実現しました。「海上すもう大会」の日程に合わせたこともあり、多くの方が浜の自然を満喫し、魅力を区内外に発信することができました。

子どもたちが考えた夢を、大人が形にしたことで、「区への参加意識の醸成や郷土愛を育む」ことにもつながることができたと思います。「流しソーメン」が「夏の風物詩」として定着し、西蒲区の一層の魅力発信につながることを期待したいです。

また、総務部会は「教育」や「防災」についても担当し、「豊かな心の育成」や「防災力向上」の取り組みなど、事業を通して地域の活性化につなげていくことが大切であると考えています。

広報部会

広報部会では、西蒲区自治協議会の活動・取り組みを区民の皆さまにご理解いただくため、平成26年度から、西蒲区自治協議会通信「じちきょう」を発行する活動をしています。

第6期の活動としては、第7号から第10号(本号)を発行しました。毎回「読んでいただける広報誌」をモットーに、記事の執筆や校正、レイアウト作業など、話し合いを重ねて作成してきました。

今後とも、「じちきょう」が区自治協議会と区民の皆さまをつなぐ広報誌となることを目指したいと思います。



平成30年度

西蒲区自治協議会委員研修

～中之口まち歩き～

10月20日、西蒲区自治協議会委員研修として、まち歩きガイドの方の案内で中之口小吉地区の各所、旧跡を歩いてきました。

小吉地区は、一級河川の中ノ口川の川岸に沿って位置しています。以前、燕から新潟の白山神社まで電車が通っていました。その中に六分駅もあり、往時の小吉地区の玄関口として賑わっていたとのこと。その線路跡、踏切注意の看板、六分では駅の名残を拜見し、乗ってみたかったなと心を動かされました。

両郡橋にまつわる話では、娘を川向かいに嫁がせたい親が、娘から「舟では嫁がぬ、川に橋を架けてくれたなら嫁ぐ」とせがまれ、橋を架けてやっただけという逸話が残っています。今や、文字通り両郡の人たちが歩いて渡れる架け橋となったわけです。

山田雪嶺さんの生家では、巻菱湖に師事されたという雪嶺さんをはじめとする多くの方々の書が、土蔵の中に展示されていました。書道愛する人たちの出会い、「ご縁」というものを感じました。雨の中のまち歩きでしたが、小吉地区の魅力を堪能しつつ、3kmの道は楽しいものでした。

お昼は地元「農家レストラン」果香詩で食事を楽しみました。料理はもちろんです、心温まるおもてなしに感謝感激でした。

中之口小吉地区のまち歩きを通して、そこで生きた人々の歴史、業績をより深く知ることができました。

多くの方々にも、是非小吉地区を訪ねてもらいたいと思います。



12/20

第2回 西蒲区教育ミーティング

子どもたちに西蒲区への愛情と誇りを育むには…

参加者は、2名の教育委員はじめ教育委員会事務局関係者、区役所関係者、小・中各代表校、自治協議会委員、計41名でした。人口減少を踏まえた地域づくりを「教育の視点」から考え、活発な意見交換が行われました。概要を紹介します。

小・中学校代表校による実践紹介

- 1 中之口地区一斉防災訓練「地域との絆づくりをめざして」(中之口中学校) 土曜日を授業日(小・中学生全員参加)にし、地区一斉の防災訓練・防災学習を初めて行った。900近い世帯と2500人を超える参加があった。
- 2 つながりで羽ばたこう 鎧GO! 2018(鎧郷小学校) 総合学習で6年生が、地域をPRするメニューを「そら野テラス」と共同開発し、商品化を行い、販売へつなげた。

●自治協議会からの主な意見(抜粋)(5グループに分かれての話し合い)

- ・中学生を巻き込んだ防災訓練はたいへん有意義。地域住民とともに貢献することで、地域の一員としての誇りや愛着が育つ。
- ・非常時には、中学生はとても大事な「働き手」となる。その活躍の場が与えられると力を発揮する。そういう場をどう与えられるかが大人の役割でないか。
- ・地域の行事に子どもたちが参加できない状況にあるように思う。防災訓練はどの地域でも工夫してやっているが、学校を取り込む形を検討していきたい。
- ・自分たちの発想で考えたものが商品化され好評を得た。その成功体験が子どもたちの自信になる。その自信が、「将来、地域に残って地域に貢献したい!」につながるのではないか。
- ・他の地域でも、子どもとともに体験する様々な活動がある。地域での文化行事や地域活動に幼いころからかわらせることが大事。
- ・「〇〇名人」など、地域の方々の素晴らしい話を聞いた子どもたちの目は輝いている。こういう経験の多い子どもは、将来、西蒲区を出てもまた戻ってきてくれるのではないか。

●教育委員の話から(抜粋)

- ・「将来の夢や目標を持っているか」「学校の規則を守っているか」「人の役に立つ人間になりたいと思うか」という数値が、西蒲区の子どもの場合は高い。素晴らしい力、素質のもとをつくってくださってるのが、参会の皆様はじめ、地域の方々、保護者の方々。
- ・大人がまず自分たちの地域の素晴らしさを知って、それを子どもたちに伝えていく機会があると、子どもたちは地域に誇りや愛情を持って育っていくということを、今日のみなさんの話を聞きながら確信した。